

教職支援室便り

11月号
平成26年11月14日(金)

文責：教職支援室 山本 寛 幸
☎ 0985-20-4808

平成27年度教員採用選考試験合格者数

11月14日現在

13名(延べ15名)

★既卒者については、把握分のみ

= 4年生4名(延べ6名) + 既卒者9名(延べ9名)

【中学校英語】

宮崎県1名(既卒者1名)、鹿児島県2名(4年生1名、既卒者1名)、大分県1名(既卒者1名)、福岡県1名(4年生1名)、山口県2名(既卒者2名)、鳥取県1名(既卒者1名)、愛知県1名(4年生1名)、神奈川県1名(4年生1名)

【高等学校英語】

大分県1名(既卒者1名)、滋賀県1名(既卒者1名)、神奈川県1名(4年生1名)

【中高共通英語】

千葉県1名(4年生1名)

【小学校英語】

宮崎県1名(既卒者1名)

※他に、既卒者が1名、大学(助教)に合格しています。

現在、教員採用選考試験の競争倍率等はどうなっているのでしょうか。文部科学省がまとめた「平成25年度公立学校教員採用選考試験の実施状況(最新のデータ)」から見ていきます。

最近10年間の競争倍率の推移を学校種別に見ると、中学校は11.8倍が7.5倍に、高等学校は14.1倍が7.7倍にいずれも低下しています。しかしながら、7.5~7.7倍と依然として高い数字です。

競争倍率が高かった自治体は、中学校では、福島県17.9倍、宮崎県16.2倍、長崎県14.3倍、青森県14.0倍、鹿児島県13.6倍でした。高等学校では、大阪市43.9倍、沖縄県21.6倍、鳥取県19.2倍、鹿児島県18.0倍、京都市17.1倍でした。

また、採用者のうち新規学卒者の割合を見ると、中学校は29.4%(前年度29.5%)、高等学校は26.8%(同25.9%)でした。採用者数の70%強が既卒者で、新規学卒者で合格することは簡単ではない現状があります。

更に、採用者のうち臨時講師等など何らかの教職経験のある者は、中学校で54.1%(同57.3%)、高等学校で53.3%(同59.2%)でした。臨時講師等として仕事をしながら、何年も採用選考試験を受けている人も多くいます。

そのような中、第二次選考試験結果(大分県のみ第三次選考試験)をほとんどの自治体が発表しました。新規学卒者の合格が厳しい中、今年度は、4年生が4名(第一次選考試験受験者11名:過去最少の受験者数)、6自治体に合格しました。

★ この10年間の合格者数

既卒者については、把握分のみ

単位：名 () は、延べ合格者数

	H27.4	H26.4	H25.4	H24.4	H23.4	H22.4	H21.4	H20.4	H19.4	H18.4
合格者数	13(15)	11(16)	15(17)	11(12)	14(14)	6(6)	7(8)	14(14)	5(5)	6(6)
4年生	4(6)	6(9)	4(6)	5(5)	2(2)	2(2)	3(4)	4(4)	1(1)	3(3)
既卒者	9(9)	5(7)	11(11)	6(7)	12(12)	4(4)	4(4)	10(10)	4(4)	3(3)

第二次選考試験「模擬授業」の課題

今年度の第二次選考試験で実施された模擬授業の主な課題を自治体別に紹介します。模擬授業は、他の受験者を生徒と見立てたり、面接員が生徒役になったりして、教室において模擬授業を行うものです。模擬授業といっても教科（英語）指導だけでなく、道徳や学級活動等が課せられる場合もあります。

また、模擬授業は、その場で課題が示されてから5～10分間考える時間が与えられ、その後、授業を行うのが一般的です。いくつかの自治体では、事前に課題が与えられているところもあります。学習指導案は、不要なところが多いですが、当日、学習指導案を書いて、授業を行うところもあります。

更に、佐賀県では、平成25年実施の第二次選考試験から、ICTの活用能力を評価するため、電子黒板を使用した模擬授業を実施しています。

[宮崎県] 26年実施

● 中学校英語模擬授業題材

中学校がスタートして2カ月あまりが経ちました。一般動詞を学習していくうちに文字と音が一致せず、つまづいている生徒が数名います。このつまづきを解消するためにどのように授業をしていくか。分かりやすい授業をして下さい。

※模擬授業の題材が提示され、15分間構想を練る。その後、試験会場に移動し、受験番号、名前を述べた後、模擬授業を10分間行う。授業終了後、5分程度面接員から授業についての質問がある。

◀質問内容▶

- ・この後の授業の展開はどうか。
- ・授業をやってみた感想を述べなさい。
- ・次の授業は、どう進めるか。
- ・やってみて難しかったところはどこか。

[神奈川県] 26年実施

○英語模擬授業題材

中学校	生徒一人ひとりが主体的に学習し、「確かな学力」を育むよう工夫された授業
高等学校	ねらいを明確にし、生徒が充実感をもって主体的に学習に取り組むよう工夫された授業

○内容及び留意点

- (1) テーマに沿った1単位時間の授業計画を立て、指導案を作成し、導入から展開にかけての最初の10分間（準備、片付けを含む）を模擬授業として行う。
 - ・受験する校種等・教科（科目）の授業を行う。
- (2) 各受験者（10名程度）の模擬授業がすべて終了した後に、司会を決めずに受験者同士で集団討論を行う。
 - ・各受験者は順番に、テーマに沿った授業計画に関して自己評価を発表する。（1分程度）
 - ・模擬授業及び自己評価を踏まえ、テーマに沿って協議を行う。（25分程度）

[福岡県] 25年実施

● 中学校学級指導題材

あなたは2年生の担任をしています。先日、生徒指導担当の主幹教諭から、「インターネットの掲示板に生徒を誹謗中傷する匿名の書き込みがありました。各学級で指導をお願いします」という指示がありました。情報モラルの育成という観点から、内容を考えて授業を進めて下さい。

※模擬授業の題材が提示され、20分間構想を練る。その後、試験会場に移動し、入室後、黒板に区分と受験番号、名前を書いた後、模擬授業を10分間行う。模擬授業中、面接員は生徒役として頷いたり返事や質問をするので、それに対応しなければならない。

【千葉県】26年実施

○英語模擬授業題材（構想5分、実施6分）

- ・中学校：「言語活動」を取り入れた授業
- ・高等学校：「英語表現Ⅰ」の内容を取り入れた授業

卒業生 春田あゆみ教諭 九州地区道徳教育研究大会で研究発表

11月28日（金）に実施される「第40回九州地区道徳教育研究大会 第35回宮崎県小・中学校道徳教育研究大会」で本学卒の日向市立大王谷学園（中等部）春田あゆみ（旧姓野見山）教諭（H21年3月卒）が課題別分科会で研究発表をされます。

本大会は、「よりよい自分をつくり、ともに生きる力を育む道徳教育」をテーマに、宮崎市立清武小学校・清武中学校を会場として、公開授業、課題別分科会、記念講演等が計画されています。

教員志望の学生にとって有意義な研究の場になると思っています。宮崎市内で開催されますので、是非、参加ください。



9:00		9:30		9:50		10:40		10:55		11:55		12:55		14:25		14:55		16:45	
受	開	移	公	移	授	昼	課	移	記	閉	付	会	行	動	念	会	行	事	事
	行		開		業	食	分		念						講				
	事	動	業	動	研		題	動	演						演				
					究		別												
							科												
							会												

「自己の生き方を振り返り、考えを深めることができる道徳の時間の在り方 ～体験活動を生かした指導を通して～」

春田あゆみ

日向市教科等研究会道徳部会では、「体験活動を生かした道徳の時間」の実施に向けて、研究を行っている。

今回は中学校第1学年の読み物資料「むかで競争」（「自己が属する様々な集団の意義について理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める」）について授業の組み立てを全体で協議し、指導法の工夫を行い、実践した。

研究を通して、生徒が本授業から、自分の学校生活全般を振り返り、自分の役割を果たすことで、よりよい集団作りに貢献したいと考えることができたことが分かった。



現職教諭・臨時講師等の来訪者（10月）

10月も8名の本学卒業生が教職支援室を訪れ、近況等を語ってくれました。

小玉直子先生（H10.3 卒宮崎市在住）、山口枝里先生（H26.3 卒宮崎市在住）、山元愛先生（H25.3 卒鹿児島県在住）、野崎友里恵先生（H22.3 卒小林市在住）、黒木哲史先生（H25.3 卒延岡市在住）、宮崎卓也先生（H25.3 卒高原町在住）、堀内奈津紀先生（H15.3 卒えびの市在住）、山本義隆先生（H23.3 卒宮崎市在住）

